

No.	22-2102	
研究課題名	子宮および卵巣がんの精密診断のための遺伝子解析研究	
研究代表者	斎藤 豪（札幌医科大学・教授）	
研究組織	受入教員	古川 洋一（東京大学医科学研究所・教授）
	分担者	古川 洋一（臨床ゲノム腫瘍学分野・教授）
	分担者	池上 恒雄（臨床ゲノム腫瘍学分野・准教授）
	分担者	山口 貴世志（臨床ゲノム腫瘍学分野・特任講師）
	分担者	高根 希世子（臨床ゲノム腫瘍学分野・助教）
	分担者	畠山 晴良（臨床ゲノム腫瘍学分野・学術支援専門職員）
	分担者	松浦 基樹（札幌医科大学 産婦人科・講師）
	分担者	岩崎 雅宏（札幌医科大学 産婦人科・准教授）
	分担者	玉手 雅人（札幌医科大学 産婦人科・助教）

東京大学医科学研究所国際共同利用・共同研究拠点事業  
共同研究報告書（年次終了・研究完了）【国内】

共同研究報告（年次終了）

すでに、約200例の子宮液状化細胞診の余剰検体を採取済みである。これらの検体について50遺伝子のパネル遺伝子解析を行い、細胞診の結果との比較を行った。細胞診での腫瘍陰性にもかかわらず、液状化細胞診で遺伝子変異陽性のサンプルについての追加解析を実施した。また被験者の中で、がんあるいは前がん病変が同定され治療が行われた患者からは、切除組織の遺伝子解析も行った。加えて、細胞診で陰性の患者でフォローアップ中になんか化して患者からは正常内膜組織も収集し、遺伝子解析結果の比較も行った。現在これらの研究結果について論文を投稿中である。

また、腹水を認める卵巣がん（および子宮がん）患者43例からの腹水および腫瘍組織、唾液の収集を行っている。これらの症例において腹水・腫瘍組織・唾液での遺伝子解析を行い、遺伝子変化と臨床情報の比較を行っている。